

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2393100199		
法人名	社会福祉法人相志会		
事業所名	介護複合施設こころくぼり		
所在地	愛知県安城市篠目町竜田155番地		
自己評価作成日	平成31年3月3日	評価結果市町村受理日	令和2年2月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kanokata-sha.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kibon-trunk&key=02-2393100199-008ServiceCd=300
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ユニバーサルリンク
所在地	〒463-0035 愛知県名古屋守山区森孝3-1010
訪問調査日	平成31年3月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

季節の催しや外出等含めたレクリエーション活動

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設一年に満たないが明るく広い施設で入居者、スタッフ共に明るく、元気な声が聞かれる。経験の長いスタッフと外国籍のスタッフとの混合だがスタッフ同士のコミュニケーションはよく又維持に努力している。法人の理念である「笑顔の介護と安心の住まい」を実践している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を插んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどではない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどではない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 太いが増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどではない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどではない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどではない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどではない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどではない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどではない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

己	自	部	外	項目	自己評価		外部評価	
					実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営								
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている			法人の理念でもある、笑顔の介護と安心の住まいと地域貢献を運営理念にもち、高齢期を自分らしく生活して頂く	介護の現場ではユニットリーダーや計画立案者が中心になり「笑顔の介護と安心の住まい」を実践している。対外的な地域との関わりはまだ十分とは言えない。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している			近隣の神社や飲食店など、レクやボランティアの団体等とつながりながら、交流をはかっている。	同建物内に介護老人福祉施設や通所介護がありボランティア活動を積極的に受け入れている。近所の中学生の訪問もあり地域との交流の場を提供している。町内会長が推進会議に出席してくれており地域との情報の交換の場としている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている			近隣の中学校のお茶会におよばれし、お菓子づくりを一緒に行ったり、見学等で事業所の理解を深めている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでその意見をサービス向上に活かしている			3か月に1回ほど運営推進会議を行い、日常の活動や取り組みを報告して公表しているその際に家族からうかがった意見等、現場の取り組みに反映させている。	二か月に一回、同建物内の看護多機能型居宅介護、介護老人福祉施設と合同で開催している。出席者は町内会長、行政機関、地域包括支援センター、入居者家族、各施設側からの者となっている。地域や行政からの情報や意見交換をしている。家族からの意見にも配慮している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる			運営推進会議を通して、市役所や地域包括支援センターと情報交換を行っている。	推進会議の場での情報交換や相談が多い。重要事項は法人からの連絡が多い。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる			事故防止、リスク管理委員会を設けて、玄関の施錠を含めて、身体拘束をしないケアにつとめている	事故防止委員会の中で日常生活の中での拘束について研修を行い認識を統一する様に努力している。ホーム内は自由に移動できる。施錠はしていないが一人で外出しようとする建物玄関前はガラス張りの管理室になっておりスタッフが気づいて対応できる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている			法人で虐待防止について研修を行い、また休みやオフを優先させ、無理をしたり、ストレスをため込みすぎないように、働きやすさも検討している。			

已 自部 外	項 目	自己評価	
		実践状況	外部評価
		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	まだ理解が浅い部分も多々あるため、これからもっと勉強したい。	
9	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用開始前に、ご家族や利用者様に十分な説明をして、同意を得たうえで納得してもらったうえでサインと印をもらっている。	
10	(6) ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を通して、利用者の活動や、事故等事実をそのまま報告し、それらに対して、意見交換や考えを聞かせていただいている。	家族会はまだ発足していない。ホーム便りも発行していない。家族の意見、相談等や連絡は推進会議や面会時に行っている。
11	(7) ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や委員会を通して、定期的に話し合いの場を設けて改善案や提案をだしあっている。	月に一回のユニット会議で現場の希望や意見を管理者に提出している。個人面談は年に二回法人で行われている。
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は自己評価シートを職員に書いてもらい、それらをもとに面談しながら、各々の目標ややりがいをもって、働いていけるように務めている。	
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	次のリーダーが育つように各々のケアや声掛けなど、個人面談を通して、意見を聞き、研修等参加してもらいながら、より良いケアと各職員の今後の目標をもってやっていけるよう努めている。	
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コンサルタントを通して、研修や勉強会に参加していく取り組みを図っている。それによって職員の知識向上をはかっている。	

己 自部 外	項 目	外部評価	
		自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族やケアマネから情報収集を行い入居に際して不安におもっていること、心配なことがすこしでも解消されるようにつとめている。	
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談等で家族が抱える問題を洞察して不安や要望に耳を傾けながら、関係づくりに努めています。	
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の必要なニーズを明らかにして、他事業所とも連携を図り、適切な支援を心がける	
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に支えあいその人らしい安心できる暮らしを心がけ、掃除や簡単な家事を手伝って頂き、助け合える関係性をつくる。	
19	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とは連絡や日用品の購入や馴染みのものを持ってきていただくなど、可能な限り、つながりがたれないよう、支援していく。	
20	(8) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚の集まりや、近所の喫茶店など今迄つかった馴染みの場所にも気軽に顔が出せるよう支援していく。	馴染みの喫茶店に家族同伴でいく入居者もいるが入居前に独居だった人も多く個人的な外出は難しい。今後は全員が外出できる場所と機会を増やして新しい馴染みの場所を作っていきたい。
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆で塗り絵や体操など、それぞれが孤立せずにつながりがたもっていけるように支援していく。	

已 自部 外	項 目	自己評価	
		実践状況	外部評価
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ケアマネや家族を通して、その後の経過や情報交換につとめ、もとめられれば、その都度情報を提供していく。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
23	(9) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いや暮らし方に共感し、話を聞いて寄り添っていく心がけをする。	相手と目線合わせ、表情を観察し想いを推測する様にしている。相手に合わせて自分を演技することもある。意向に添えない時は直接的な言葉をさげ意識をそらせたり時間をかけて再度試みるようにしている。
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	1人の人格者と認めて接し利用者1人1人にあった生活ができるよう見守ってあげる。	
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、心身状態は変化があるため、表情、行動、健康状態を把握し努める。	
26	(10) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランの(利用者のご家族希望)を職員が毎日チェックして計画作成をもとにケアのあり方を行う。	毎日のケアの実践時にケアプランに即しているかチェックしている。三ヶ月毎にケアマネージャー、管理者が実践記録とユニット会議録に基づいてモニタリングをしている。
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日報に日々の様子、気づきやケアの記録を記入、申し送りをし、職員で必ず見直し活かしている	
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者、ご家族の状況を充分理解し、ニーズに対応するよう心掛け、利用者の状況により上司に相談を心がけている。	

已 自部 外	項 目	外部評価	
		自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を活用し利用者の方に楽しんでいただけるような支援に向け、努力しています。	
30	(11) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	ご家族、本人の希望に沿い納得されて医療にかかっていたりできるように支援します。	協力医療機関は月に2回の往診があり医療機関の特徴を説明している。入居時に本人や家族の意向でかかりつけ医の継続が出来る事を説明して選択できる支援をしている。歯科は月に2回の往診がある。往診時はプライバシー確保が出来る場所が準備されている。
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	常時、看護職の方に利用者の変化を伝え情報を共有している。	
32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	急変時にも対応できるように情報をまとめ置き、病院関係者の情報交換に努めている。	
33	(12) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現状ではまだ終末期に向けた方針などの話し合いを行っていません。	重度化や終末期の方針はこれからの課題として捉えている。本人や家族からの要望も今の所でない。協力医や個々のかかりつけとの連携で今後ホームとしての指針に取り組む予定である。
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応などの研修を受け、電話の横にはって、あわてないようにしている。	
35	(13) ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行い災害時の連絡方法など教わったが繰り返しやっていきたいと思います。	避難訓練は年に2回実施している。消防署出身のスタッフのアドバイスでより安全確保をどのように出来るか具体的な話合をした。地域との協力体制は課題であるが同一建物の併設事業所とは協力できている。食糧確保については検討課題として認識している。

已 自部 外	項 目	自己評価	
		実践状況	外部評価
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14) ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の生活歴を把握して、その方の誇りやプライバシーを損ねないように対応するようにしています。	利用者一人一人が今どのように感じているか、どのような背景を見ているのかに思いを馳せて関わるよう心掛けている。テーブルの配置や席の変更で人格の尊重を確保することもある。声をかけるタイミングや顔色を察知して言葉選びで対応している。「ノックや声かけ」をして行動することを始めの一步と捉えている。
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望にそって自己決定ができない場合もある。	
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごした いか、希望にそって支援している	ご自分のペースにて過ごしていただけるよう支援をしています。	
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の好みで選んできている。クリームをつけたり、ひげそりなどできるよう支援しています。	
40	(15) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者1人1人できる役割にそって洗いもの、盛り付けなど、一緒に準備をして、テーブル配置をかえたりして、楽しむようにしている。	クックチルを活用している。ご飯と汁物は各ユニットで調理をすることで香りの刺激を感じる事が出来る。食欲を誘う彩や見栄えを大切に盛り付けをしている。片付け、洗い物を職員と一緒にしている姿が見られた。「だしのきいた汁物や味付けが良いのでいつもおいしい」と利用者から声があった。
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の水分量、食べれる量など把握しながら、少しずつでも全種類食べれるように支援していきます。	
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けをしてできない方には介助をしてできる方には確認するようにしている。。	

已 自部 外	項 目	自己評価	
		実践状況	外部評価
43	(16) ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて職員間で把握に努め、誘導必要な利用者には定期的な声掛け、介助をして自立の支援を行う。	自分でトイレに行く支援を心がけている。さり気ない見守りや声かけで自立の継続支援を行っている。トイレ使用自立の難しい方はトイレでの排泄を目標にして、プライバシーに配慮した誘導を定期的に支援している。
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を促したり、体操や散歩など運動をすることによって排便をスムーズに行くように取り組んでいる。	
45	(17) ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本午前中に時間帯を決めてしまっているが、利用者の希望にて夕方でも入っていたり支援している。	同性介助を基本に週に2回の入浴を目標にしている。「お風呂に入りたい」の要望があれば出来る限り入浴の支援をしている。拒否のある場合は時間を置いたり別の職員で誘ったりして気持ちよく入って頂く工夫をしている。入浴剤を使用して気分転換も測っている。
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠リズムを把握しながら、ご自分のペースにて休息したり、眠れるように支援しています	
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の約定により目的や副作用、用法、用量を理解して変化に気をつけるようにしている。	
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	変化あるようにおやつ作り、誕生日会、食事会、お出かけなど楽しみをつくるように支援しています。	
49	(18) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出や食事会 散歩など支援に努めているが、その日の希望に職員の人数によりできないこともある。	建物内は施設していないので自由に移動することが出来る。ヤギのいる喫茶店、近くの公園まで散歩している。外食や喫茶店等への出かける機会を要望に応じて出かけられる支援をしている。月に1回、外食を年間行事として家族の了解を得て支援している。出かける機会は家族の協力もある。

已 自部 外	項 目	外部評価	
		自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自動販売機まで、好きな飲み物を買っていく程度の金銭をもって、ご自身で買い物をするという楽しみを持っていただけるようしえんしている。	
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所のほうから家族様のほうに連絡し、希望があれば、つなげるように支援しています。	
52 (19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	太陽光が差し込み、日向ぼっこが楽しめるよう、日当たりの良い場所にソファや腰掛ける場所もとめどなく用意されています。	2階にあるホームは日当たり・見晴らしがよく明るい環境となっている。ユニットごとは自由に行き来が出来る開放的な空間となっている。加湿器にアロマを使用して落ち着ける雰囲気を出している。ソファの設置場所の工夫で気の合った利用者や面会の家族とゆっくり過ごせる空間の確保をしている。
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	縁側にみだたような駐車場が見える場所や庭がみえるソファなどそれぞれの場所とそれぞれの空間づくりを大切にしている。	
54 (20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室のドアにはそれぞれ違う色のラインがあり、そこで暮らす方にとっての目印になり、気持ちよく暮らせる空間になるようにとおもいます。	ベット・エアコン・照明・カーテン・コールド器具はホームで準備しているが、使い慣れた物やテレビ、冷蔵庫、仏壇等を持ち込んでいる。また趣味で書いた水彩画を飾って落ち着ける環境を工夫した居室もある。福祉用具の設置で安全に移動でき、自立出来る環境づくりがあった。居室の入り口に手作り作品があり個性が躍る。
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりなど伝ながらなど歩きやすいよう、段差もほとんどないよう構造にも配慮されている。	